

巻頭言「新しい大学の紀要」

著者	鈴木 滋彦
雑誌名	アグリフォーレ・レポート：静岡県立農林環境専門職大学静岡県立農林環境専門職大学短期大学部紀要・年報
号	1
ページ	1-1
発行年	2021-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1775/00000003/



巻頭言「新しい大学の紀要」

鈴木 滋彦（静岡県立農林環境専門職大学学長）

将来の農林業を支える人材育成を目指して、令和二年四月、静岡県立農林環境専門職大学と同短期大学部の二つの大学が誕生しました。英名はShizuoka Professional University of Agricultureと言います。専門職大学は「高度な実践力」と「豊かな創造力」を養うことを目的として制度化された新しいタイプの大学Professional Universityです。

本学は全国初の農林業系の公立大学です。栽培技術、生産技術に加えて加工・流通・販売と経営の分かる人材の育成が使命です。あわせて、農山村地域の環境や文化伝統を守り、地域を支えるリーダーを育てることが期待されています。本学の歴史は古く、明治33年庚子（かのえね）の年、農事試験場に見習生制度が始まった時まで遡ることができます。明治政府が農業技術者を育てるため制度化したことが始まりです。その後、幾度か名称を変え平成11年に農林大学校となり、令和2年までに1万人ちかくの人材を輩出してきました。

長い歴史を背景に、新たに大学としてスタートして一年が経ちました。専門職大学に課せられた主要な課題は、高等教育すなわち大学における職業教育のあるべき姿を示すことにあると考えています。これまでの大学と同様に、教育と研究を担うことになりますが、専門職大学では実習・演習が授業の1／3以上を占めること、長期のインターンシップに相当する「臨地実務実習」により学生の成長を促すこと、教員の4割以上が実務家教員であることなどが特徴となっています。

この様な特徴を持つ「新しい大学」としてスタートをきった本学にとって、職業教育の実績を記録として残すことは責務であると考えています。実習・演習を中心とした教育手法は、特に農林業分野では進展が著しく、その足跡と教育的な試行の実績を記すことは学術的な価値があるものと考えます。また、法人等で実施される学生の臨地実務実習は未知の分野であり、企画運営と教育効果の評価はキャリア教育、職業教育の課題として貴重な経験となるでしょう。

本紀要はしたがって、新規性の高い原著論文の投稿の場となることは勿論のこと、本学特有の教育活動を学術的な著作として記録する場として発刊されるものと理解しています。十年後、二十年後にその評価を仰ぐことができれば幸いです。